

**J** **apanese text**

2017年 秋/冬号 日本語編

旅館

**冬籠り**

[ The Ryokan Collection ]

文=鈴木博美

p.074

あらゆる自然が眠り沈黙する冬は、キンと張り詰めた冷たい空気が澄んだ美しさを湛える季節。凍てつく寒さを近くに感じながらも、身も心もほっこりとした温もりに包まれる冬の旅館には、この季節だからこそ味わえる、この上ない安らぎが待っている。

雪月花。それは、古くより日本人が愛でてきた自然美を代表する3つである。この小さな島国が桜の花に包まれてほのかなピンク色に染まる春は、多くの人が花見に興じる。また、大気が澄み、月の光がさやけさを増す秋には、天空の月に想いを寄せ月見を行うというのも風流な習慣として広く知られていることだ。それらと並び挙げられているのが冬の雪。ひらひらと舞い降りる雪の様子や、清め洗われたかのような白一色の景色を、雪見と称して人々は楽しんだ。気候的に過ぎやすい時季の、あでやかな自然ばかりを追い求めるのではなく、寒く厳しい冬にすら風流な美しさを見出すことから、まさに折々の自然を受け入れ寄り添いながら生活し、文化を育んだ日本人らしい感性を知ることができる。

スキーやスケートといったウィンターレジャーで活動的に冬を楽しむのもよいが、日本らしい冬の風情を味わうのであれば上質な旅館で“冬籠り”するのがおすすめだ。“冬籠り”とは本来、寒さを避けるために家の中にこもりがちになって暮らすことをいう。雪国の人々は炬燵や囲炉裏端で、春に向けての畑仕事の準備をしたり団欒をしながら長い冬が明けるのを待った。雪が降る夜は、とても静かだ。積もった雪が全ての物音を吸い取ってしまうかと思えるほど、しんと静まりかえっている。その静けさの中、囲炉裏の炭や薪が時折パチンと小さな音を立てる。ガスが普及したことで現在ではほとんど見かけることがなくなってしまった、郷愁を帯びたそんな日本の原風景を体感してみしてほしい。ゆっくり燃える炎を眺

めているうちに心が安らいでいくのがわかるはずだ。

冬、眼前に広がるのは、木々も葉を落とし山が眠りについた枯淡の風景。一切が削ぎ落とされたさびた景色に滲み出る、霜や氷の結晶の一瞬のきらめきや艶やかさはまさに引き算の美学の極致。冴えた透明感ある美しさを思いがけず発見することができるだろう。あえて今、冬籠りして静かに過ごす。それは、冬ならではの自然の美しさに心を寄せるとともに、寒いからこそ強く感じられる温もりを味わうことでもある。特に冬場の温泉は格別だ。冷たい空気に、温泉の湯けむりはいつそう勢よく上がる。かじかんだ体を湯船に沈めれば、涌き出でる湯の温かさに体が溶けてゆくかのよう。また、室内のぼかぼかと優しく柔らかな冬の日だまりで読書やもの思いに耽る時間は、きっと何とも言えぬ穏やかな幸福感をもたらすだろう。さらに冬は、ふぐ、たら、ぶり、カニ、牡蠣といった海の幸が豊富な時期である。それらをたっぷり盛り込んだあつあつの鍋料理は、この季節らしいご馳走。50℃程に温めた熱燗の酒をお供にするのがおすすめだ。冬の旅館での滞在は、心までほっこりと温まる至福のひとつとなるだろう。

(p.075)

左上：160年前の豪農の館を移築した「倭乃里」本館の大きな囲炉裏。夕食の後には、青竹の筒に日本酒を入れ囲炉裏で燗をつける名物「かつぼ酒」が振る舞われ、宿泊客同士の交流の場にもなっている。

上：日本の原風景を現代に伝える、合掌造りの離れ。目の前を流れる清流のせせらぎが心を和ませる。

左：総檜の風呂から見えるのは、飛騨の雄大な景観。冬季は雪見ながら温泉を楽しむ。写真提供=倭乃里

(p.076)

上：自然との調和をテーマにした「季譜の里」のスイートルーム「都わすれ」。木を生かしたインテリアが落ち着きのあるシックな雰囲気を出している。

右：館内のいたるところに、季節の花が生けられている。じっと春の訪れを待つ梅の蕾がいじらしい。

下：部屋に温泉が引かれている「都わすれ」のバスルーム。プライベートな空間で心おきなく温泉に癒やされる。写真提供=季譜の里

(p.077)

上：「別邸 音信」での冬の夕食には何と言っても、山口県名産の天然ふぐを味わい尽くすコースがおすすめ。コースの主役、ふぐ鍋で体が芯から温まる。

右：湯治に最適な肌に優しい泉質。掛け流しの良質な温泉の大浴場には、開放的な露天風呂のほか、横になって入れる寝湯もあり、リラックスして過ごせる。写真提供 = 別邸 音信

アリー空間を体現した温泉リゾート。視界の先にのどかな山の風景が広がる客室全てに源泉掛け流しの露天風呂があり、館内はスパやジム、バーなども備えている。四季折々の美味を味わえる「雲遊」の会席料理のほか、山口県産の「長萩和牛」や伊勢海老といった厳選食材を目の前で調理する鉄板焼きも人気。

住所 / 山口県長門市湯本温泉 部屋数 / 18 室

## 倭乃里

豪雪地帯として知られる飛騨の山間の隠れ里に位置する、大自然のふところに包まれたわずか 8 室だけの小さな宿。世界遺産の白川郷から移築した合掌造りの部屋をはじめ、日本建築の深みと趣を楽しめる個性豊かな客室を有しており、一枚ガラスの大きな窓から手つかずの自然が織りなす四季折々の姿を間近に感じることができる。名物の飛騨牛や飛騨野菜、川魚などの地元の食材を生かした郷土料理や、かまど炊きのご飯の美味しさにも定評がある。

住所 / 岐阜県高山市一之宮町 1682 部屋数 / 8 室

## 季譜の里

ゆのこう  
湯郷温泉は、1200 年の歴史を誇る岡山県を代表する温泉地。「季譜の里」は、肌がすべすべになる美人の湯として名高いこの名湯を、ゆっくり堪能できる旅館だ。庭園を望む大浴場や露天風呂をはじめ、貸切露天風呂、デトックス・温熱効果の高い天然鉱石を使用した蒸し風呂など、湯処が充実している。秋の間に旨みたっぷりの脂を蓄えた猪のシシ鍋コースは、贅沢な冬季限定の旬の味。地産の滋味溢れる一品だ。雲海の名所・大山展望台に程近く、冬、運が良ければ幻想的な景色に出会える。

住所 / 岡山県美作市湯郷 180 部屋数 / 33 室

## 別邸 音信

開山 600 年を迎えた古刹、大寧寺に源泉を持つ長門湯元温泉の老舗旅館「大谷山荘」の別館として 2007 年に開業。日本の湯治文化にモダニズムを加味し、現代的な和のラグジュ